



次の沖縄県の医療を担う若手医師の育成が重要。そのためには沖縄県を臨床研修教育のメッカにしたい。



沖縄県公務員医師会 会長  
本竹 秀光 先生

**Q1. 沖縄県公務員医師会会長に就任され、約1年が経ちますが、これまでを振り返っての感想と、今後の抱負をお聞かせ下さい。**

大城清前会長から会長職を引き継いで一年が経過しました。

平成21年度は県立病院経営再建計画の初年度で課題山積みのスタートであったと思います。3年後の平成24年までに経営再建計画の達成が困難と見込まれる場合には地方独立行政法人への移行が検討されるということで、現場の医師にはかなりのプレッシャーがあり、従ってこの一年間は病院経営が理事会の話題の中心になりました。私は会長になって理事を次の県立病院を支える若手に刷新したわけですが、彼らはこれまでは、自分たちの役割は日常の診療であり病院経営は管理者の仕事という認識でしかありませんでした。しかし、病院現場では過労死が心配されるくらい一生懸命に働いているのに何故赤字が解消されないのかという疑問が理事一人一人に県立病院経営の状況把握、そのためには経営に関する勉強が必要だという認識を芽生えさせるきっかけとなりました。

平成22年1月に公務員医師会理事会と各県立病院の医師管理者で県立病院経営についての勉強会を開きました。90%以上の管理者が集まり有意義な勉強会となりました。

また、各県立病院では事業局が委託した経営アドバイザー達が経営に関する出前講義を行ない、その結果、職員一人一人に経営に対する認識が芽生え始めました。

平成22年2月27日には知念前病院事業局長と各県立病院院長が世話人となって第1回沖縄県立病院運営研究会が南部医療センターで開催されました。それぞれの施設から経営に関する取り組みが発表され、県立病院は六つで一つを合言葉に研究会は成功裏に終わりました。

これらの意識の変化は平成21年度の県立病院決算見込みにも反映されました。経常収支が31年ぶりに黒字になったことが新聞報道で報告されました。これからも更なる経営努力はもちろんですが、今年度は現場の職員が満足できるような職場環境作りにも努力していきたいと考えています。

**Q2. 貴会の基本的な活動内容、また、特に力を入れている取り組みがありましたら教えてください。**

沖縄県公務員医師会は会員相互の親睦と相互扶助を図り、沖縄県の医療、公衆衛生の向上および県民福祉の増進に寄与することを目的に設立され、基本的にはこれらを達成することを目標に事業を行っています。県民に安全、安心の

医療を提供するためには公務員医師の勤務環境の整備が第1位と考え、公務員医師労働組合と協力し事業を展開しています。また、沖縄県医師会を中心とした地区医師会会議などへの参加で、お互いのコミュニケーションを良くし、県民に良い医療を提供することも事業活動の大きな柱であります。医師の生涯教育は重要課題と位置づけ、県立病院間での交流、県外、国外への留学などのサポートなどを行っています。

**Q3. 医師不足と医師の過重労働が全国で取りざたされる中、沖縄県も例外ではなく、取り分け離島、僻地医療を担う医師の不足の問題は深刻ですが、その解消に向けた貴会からの提案や展望をお聞かせ下さい。**

現在、沖縄県の離島、僻地医療は県立病院、琉球大学病院が中心を担っていますが、最近では民間病院からの応援も始まっています。沖縄県の医療従事者が皆で離島、僻地医療を支えようという意識の表れであり、非常に喜ばしいことでありさらに発展させたいものです。離島、へき地医療の担い手は若手医師が中心ですが、彼らが安心して医療に従事するためにはそれぞれの派遣病院のバックアップは不可欠です。彼らが離島、へき地診療従事期間中でもキャリアアップが図れるように学会や研修会への参加をバックアップすること、過重労働にならないように十分な休暇を考慮することは最低限必要と考えています。ちなみに県立病院では中部病院を中心にネット回線を使って早朝カンファレンス、コアレクチャーなどを離島病院、僻地診療所に配信しています。

**Q4. 本会または日本医師会へのご意見・ご要望がありましたらお聞かせ下さい。**

沖縄県医学会総会についての要望があります。現在の学会発表の形式は専門分科にカテゴリー分けされすぎていると思います。自分の専門分野の発表が終わると学会は終了と帰宅してしまう会員がほとんどだと思います。沖縄県医学会は年2回ありますので、其のうち一回は以前のように、内科系、外科系、産婦人科系、小児科系の大枠で口演形式に戻したらどうでしょうか。先輩、後輩の先生方を知るきっかけが作れるし、ひいては診療面での連携が取りやすくなるのではないのでしょうか。学会終了後の懇親会も必要かもしれません。

**Q5. 最後に日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせ下さい。**

私は大学卒業後中部病院で外科研修を受け研修終了後は外科スタッフとして臨床研修教育に携わってきました。若い先生方と接する機会が多いのは役得で精神的な若さを保つ秘訣かなと思っています。心臓外科医は365日24時間オンコール状態ですが、時間があれば仲間とゴルフをしたりワインを飲んだりでストレスをためないように努めています。座右の銘は私の師である真栄城優夫先生の実践されてきた（希望あれば道あり）です。

この度は、インタビューへご回答いただき、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報担当理事 當銘 正彦